

取材雑記

◆「青鬼く 赤鬼から相談を受けたん、ごめんね。時、「自分より人間が大許してくれ事なのか」と思わなかつよ」。赤鬼のたのだろつか。善意だけ悲痛な叫びをで汚名をかぶったのだろ聞き、自然とうか。青鬼が手紙を残して姿を消すラストシーン涙がこぼれを見ながら、想像は膨らんだ。

た。先月21日、高島町の演されたオペラ「泣いた赤鬼」。子どもたちに囲まれる中、
◆「純粋な自己犠牲の精神だった」「嫉妬や当て付けの気持ちもあつたと

目にあてるのは少し気恥思う」。町の人に聞いてみると、みんな楽しそうに、でも真剣な口調で話してくれた。幼い頃から
◆「泣いた赤鬼」は町親しんだ童話に、誰もが出身の童話作家浜田広介特別な思いを持っているの代表作。記者は久しぶりやうだつた。町民に時をりとその魅力を味わつ超えて愛されるすてきなた。大人になって気にな物語。今度は誰に話を向けるのは青鬼の気持ちだ。(地)